

研究実践

一、主題設定の理由

飯館村立飯檍小学校教諭

安田 鉄男
(現・県立大笹生養護学校)

解説

レポート

文字に親しみ 読み書きの力を高める指導

本論文は、六十年度教職員研究論文入選作です。児童一人一人の実態に即した指導目標の設定と指導の研究、方法の工夫により、児童の確かに変容が認められる実践的研究である。また、二年間にわたる実践の積み上げがよくなされた優れた研究です。

資料1 児童の実態

I	H	G	F	E	D	C	B	A	氏名
5	5	5	6	6	6	4	3	2	59年度
男	男	男	女	男	男	男	女	男	性
83	85	64	58	66	64	70	72	62	I Q
H児に同じ	いふ読める。2年生程度の漢字が読める。	1年生程度の漢字が読める。	文字の習得状況						

※59年度にA・B・C児入級。
60年度にG・H・I児入級。
A・B・C児入級。田所・田中ビニール知能検査を使用

(1) 授業における実践
三、指導の実際
五十九年度

漢字を使つて文章にした学習プリントを用意し、四人グループでD・E児を班長にし教え合いながら学習への意欲づけを図ってきた。

読みがなを書いた漢字カードとその漢字を使つて読み書きの力を高めるために、漢字カードを使つてかるたとりをさせ既習漢字の復習に役立たせた。

五十九年十月から六十年三月まで週二時間の国語の時間を設定し、以下の内容で実施した。

そこで特に全ての学習の基礎となる国語の文字（平仮名・片仮名・漢字）の読み書きの力ををつけさせ、日常生活に役立たせたいと考えた（対象児の実態は資料1参照）。

個人ごとの実態把握と今までの指導を反省してみると、児童一人一人の能力に応じて具体目標を明らかにし、指導の手立てと指導形態を工夫しながら指導しなくてはならないと考え、本主題を設定した。

個人ごとの実態把握と今までの指導を反省してみると、児童一人一人の能力に応じて具体目標を明らかにし、指導の手立てと指導形態を工夫しながら指導しなくてはならないと考え、本主题を設定した。

以下のような方法を能力に応じて適用する。

カードによるくり返しの学習

平仮名・片仮名・漢字カードを用いてくり返し指導をし定着を図る。

個別・グループ・一斉指導の指導形態を適宜活用していく。

指導形態の工夫

(1) 具体的目標

仮説にせまるために、児童の実態把握から指導における一人一人の具体的目標を設定した（後述）

(2) 指導方法

カードによるくり返しの学習

平仮名・片仮名・漢字カードを用いてくり返し指導をし定着を図る。

個別に応じたプリント

(1) 目標・指導形態

E・B・D	A・C
○平仮名・片仮名の読み書きができる	○1・2年生程度の漢字の「読み」の力を伸ばす
○2年生程度の漢字の「読み」	○2年生程度の漢字が読める

A・C児については随時個別指導をしていく。

二グループに分けての指導とし、A・C児については随時個別指導をしていく。